



第92号 (季刊)
平成21年10月
田中野田町内会

<http://townweb.e-okayamacity.jp/tanakanoda/>

鳩山新政権及び、高谷市長に望むもの

田中野田町内会会長 和気 健

暑かった夏も終わり、すだく虫の音に深まりいく心地よい秋を感じます。振り返ってみれば、衆議院選挙、そして、すぐさま市長選挙と慌ただしく過ぎ去った夏でした。

我が町内会最大の行事の夏祭りでは、天候に味方されないところもありましたが、多くの人々のご協力を頂き無事終えることができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、衆議院選挙で民主党を中心とする鳩山内閣が誕生し、多くの国民の期待を背負っての船出となりました。

また、政令都市岡山市初の市長選では現職の高谷さんが激戦の末再選されました。一期目の行財政改革を更に加速させていく方向は明らかであります、これまでの行財政改革を自ら検証し、修正を加え前進させて頂くことを願うところです。

ところで、米国発のグローバル資本主義は、世界中にバブル経済を発生させ、金融危機と未曾有の世界不況を巻き起こしました。そして、未だその泥沼から完全に抜け出ていないと言われています。

このグローバル資本主義は、日本の伝統文化や地域社会を歪めたものではなかったのかと言う学者の指摘があります。つまり、人と人の絆を破壊し、倫理観や地域の社会的な価値の破壊をもたらす、全く日本に似合わない「悪魔のシステム」ではないかということです。

この思想の根底にあるのは政府の介入や、社会からの善意を頼りにするのではなく、個々人が自己責任において、競争する社会こそが健全であり、その自由な社会こそが人々を幸福にし、経済を発展させ

るという考え方で、一見素晴らしく映ります。

しかし、果たしてそうなのか。一例をあげれば、わが国において長く禁じられていた「人材派遣業」の自由化は何をもたらしたか……。

企業の正社員を減らし、派遣に頼る雇用形態を促進させた結果、企業の利益体質は改善されたものの、労働者の雇用不安を生じさせ、深刻な収入格差を顕在化させ、ワーキングプアーと呼ばれる人たちを生んだと言えるのではないのでしょうか。こうして、「一億総中流」という平等社会を誇っていた日本は破壊されました。終身雇用制度を堅持していた頃の会社への忠誠・帰属、社会への連帯感とは消え、利己的な日本人を作り出したといえるのではないのでしょうか。

このように、グローバル資本主義の最大の問題点は、目先の利益を追求する意思決定システムにあるということです。なにも、現世代だけの力で豊かな生活基盤を築いたわけではありません。しかし私たちはこの当たり前の事実をしばしば忘れ、目先の利益と欲望にひきずられて、例えば現世代だけでは到底返済できそうもない膨大な財政赤字を作ったりするのであります。

町内会運営の立場から申し上げるとするならば、鳩山新政権及び、高谷市長には「自分さえよければいい」と言う、現代人を利己的にするグローバル資本主義からの大転換を望むものです。連続と続く歴史・伝統を重んじる土壌を蘇らせなければ、町内会等を中心とする地域の助け合いや、安全・安心の地域づくりは、なかなか進められるものではないと思うからです。